

5月16日 「創立記念日」を迎えるにあたり

校舎昇降口に創設者 相川繁吉先生のレリーフと先生の教育理念である「産学一體(一体)」と書かれた書があります。本校は昭和16年に設立され物作りと勉強・相川鉄工と静清高校が一体となって発展することを教育理念としています。



創立記念日を迎えるにあたり創設者相川繁吉先生の生立ちを紹介します。

先生は明治30年7月20日掛川市本所に、榛葉常吉・いと夫妻の3男として生まれました。家業は農業と臼(お餅を作る道具)などの製造が主でした。祖父や親を見ながら育った先生は幼い頃から大変理解が早く、わずか5歳で鋸(のこぎり)の目立て(鋸の刃を研ぐ)の技術を覚えたそうです。祖母からはお茶摘み等の手伝いをしながら、弘法大師(真言宗を開いた宗教家)

や二宮尊徳(幕末の武士・思想家)の話聞き、勤勉と節約の精神を教わったそうです。

明治時代後期、男子は家を継ぐ者以外丁稚奉公(仕事先に住み込んで食事はもらえるが、給料は無い)に出るのが通例で、小学校を卒業した先生も12歳で菓子問屋に丁稚奉公しました。しかし、仕事は水汲みだけで休みも小遣いもない毎日で、菓子作りさえ教えてもらうことも出来なかった為、1年で辞めてしまいました。この時、先生は日本の将来は工業の発展にあると考え、菊川市の田中鋳造所に就職し、8年間一生懸命に技術の習得に努めました。鋳造所とは、溶解炉で鉄を溶かし製品を作る所です。今とは違い職場内は大変危険で、お腹一面に火傷の痕が出来たそうです。努力の結果技術を得た先生は静岡市の製茶機械製造工場に勤められました。製品の配達・集金等の仕事を任せられ、その仕事ぶりは大変熱心であったそうです。

その後、先生は鋳造所の娘さんの相川もとさんと結婚して相川姓を継ぐことになりました。そして大正13年4月、先生は26歳の若さで静岡市泉町に相川鋳造所を設立し、製茶機械の鋳造をしました。昭和12年2月、工場拡張の為、静岡市柚木に移転し、旋盤等の工作機械を使って機械加工も行うようになりました。土地購入や工場の建設等膨大な借金を作りましたが、順調に利益を上げ1年半で返済したそうです。先生の素晴らしい決断力と実行力によって工場の基礎が築かれました。人格に優れ、清廉な人柄の先生は工場の拡充・新型機械の導入・従業員の技術向上・人格養成に力を注ぎ、鋳物業界の発展に貢献しました。

昭和14年相川工業青年学校を設立し、「相川で育った工員は技術も人格も優秀である」と世間で言われるまでになりました。先生の熱意は工業青年学校だけにとどまらず、県下の工業の発展に寄与するためと、私財を投じて本校を設立しました。

昭和16年の創立に至り、先生の意志は「人柄の良い、理論と実践力を兼ね備えた優秀な技術者の育成」という、“建学の理念”を表現されました。これは現在も「本校の教育理念」や「校訓」に脈々と継承され、14,000余名の卒業生の原点として大切にされています。先生は「若者は夢を持って、しかもたくさんの夢を持って」が口癖であり、これには1つの夢を追いかけて実現不可能になり夢破れた時、人は落ち込んでしまうのが普通ですが、たくさんの夢を持っていれば、夢に破れても他の夢に向かって頑張ればよいという考えがあったからです。

創立記念日を迎えるにあたり、創立者相川繁吉先生を紹介させていただきましたが、先生の「思い」を心に刻み、「夢」をたくさん持って未来に向かい、有意義な高校生活を過ごして欲しいと思います。